

土木学会選奨土木遺産 旧江尾発電所

国の登録有形文化財

きゅうえび



● 鳥取県江府町

明治 40（1907）年、鳥取県西伯郡米子町（現・米子市）で設立された山陰電気は、県西部に積極的な設備投資を行っていました。その一つが、大正 8（1919）年に完成した江尾発電所（出力 1,000kW）です。

それから半世紀にわたって、日野川の中流部では江尾発電所、川平発電所（昭和 6 年完成 出力 1,300kW）、旭発電所（大正 10 年完成 出力 2,000kW）が稼働していましたが、老朽化のうえ河水の利用率も低く発電所の再開発が検討されました。

昭和 52（1977）年 3 月、新川平発電所（現在の出力 13,800kW）の建設開始により、同年 7 月に江尾発電所は廃止され、建物は変電所に替わりしました。しかし、それも 7 年間で廃止され、その後は研修施設として利用されていましたが、平成 2（1990）年 11 月に江府町へ譲渡されました。

旧江尾発電所は、平成 8（1996）年に貴重な建築文化の保存活用を図ることなどを目的に鳥取県が選定する「県民の建物 100 選」に選ばれています。また、平成 19（2007）年には土木学会の選奨土木遺産に認定、さらに平成 21（2009）年 8 月に国の登録有形文化財に登録されました。

本館は鳥取県内唯一の石造り建築で平屋ですが、一部 2 階建になっています。キングポスト・トラスという西洋の屋根構造で瓦葺きの屋根を支えていましたが、鳥取県西部地震の影響で金属板に葺き替えられました。

■位置図



ルスティカ仕上げ（石の表面がゴツゴツとしたままで角を整形）の石材やアーチ型の窓、壁から突き出した柱など装飾的なデザインが各所にみられます。現在、石造発電所は全国に 11 ケ所ありますが、そのうちのひとつとして今もその重厚さを保っています。

元は白い石造りの外壁でしたが、残念ながら戦時中空襲に備えて黒く塗られた跡が一部に残っており、建物全体を眺めた時に痛々しく感じられます。



2 本の水圧鉄管が通っていた痕跡



ルスティカ仕上げ（石の表面がゴツゴツとしたままで角は整形している状態）の石材が装飾的にみせている。また電線が引き込まれていた穴の跡がわずかに残る。



旧江尾発電所本館（江府町）
鳥取県内唯一の石造り建築。屋根についた枠は電線へ滑り落ちる雪を止めるため、壁から突き出した柱が特徴といわれる。